

## 事例研究報告

高等部生徒の朝の活動を  
一人でするための支援

# 生徒の実態

- ・ 高等部（自閉スペクトラム症）
- ・ 日常の簡単な会話の受け答えができる。
- ・ スケジュールや手順書を視覚的に提示すると理解することができる。
- ・ 時間を意識して活動ができる。
- ・ iPadで好きな動画を見ることが好きであるが、自分の世界に入ってしまい、興奮して場所を考えずにジャンプをすることがある。
- ・ 複雑な質問や分からないことに対しては、文脈依存で答えたり、「分かりません」と答えることが多い。
- ・ したくない活動や指示に対して、他害（叩く・蹴る）、相手に中指を立てる、床に寝転ぶ、トイレに籠もる、学校を飛び出す等の行動が見られる。

# 保護者の願い

- 就労継続支援B型事業所で就労してほしい

## 実態

B型で就労する力はあるが、

- 不適切な言動が多い
- スケジュールに沿って活動することが難しい
- 作業の集中力が短い



# 教員の願い

- スケジュールに沿って活動ができる
- 集中して作業に取り組める時間を延ばす
- 静かに安定して作業ができる



# 指導目標

スケジュールに従って朝の活動を一人でする

## 記録の取り方

- 朝の活動時のプロンプトと他害の回数を記録する。
- 備考として、考えられる原因を記録する。

月日	5月7日 (火)	5月8日 (水)	5月9日 (木)	5月10日 (金)	5月23日 (月)	5月4日 (火)	5月25日 (水)	5月26日 (木)
支援	指し2	指し2		指し身1	指し3	2		2
他害				1		1		0
備考			貝字	指し身1 まげく悪い	コミュニケーション カード 1枚に カード	2枚 指し 指し 指し		指し身1 指し 指し
月日	6月3日 (金)	6月20日 (月)	6月22日 (火)	6月23日 (水)	6月24日 (金)	6月27日 (月)	6月28日 (火)	6月29日 (水)
支援	指し身1	指し4		指し2	0	9		指し身1
他害	指し身1			指し身1	0			0
備考	指し身1 ↓ 指し身1 指し身1 指し身1 指し身1		0		指し身1 指し身1	指し身1 指し身1	指し身1	指し身1 指し身1

記録用紙

# 指導の手続き

○4/12～

1日のスケジュールを提示し、スケジュールを確認するよう言葉かけを行ったが、スケジュールを見て、自発的に行動をすることが難しかったため、スケジュールを変更することとした。

○4/22～

朝の活動のみのスケジュールを設定した。

活動前にボードに確認カードを貼るように練習した後、指導を開始した。

○6/24～

本人と話し合い、早くできたときにご褒美（iPad）の時間を設定することにした。

すべき活動とトご褒美について、再度話し合いと確認を本人と行った。

○7/11～

7/8教員が不在の間にすべきことは終わっているものの、確認をしないでiPadをしていることがあったため、「できましたカード」を教員に提出してから休憩に入るようルールを変更した。

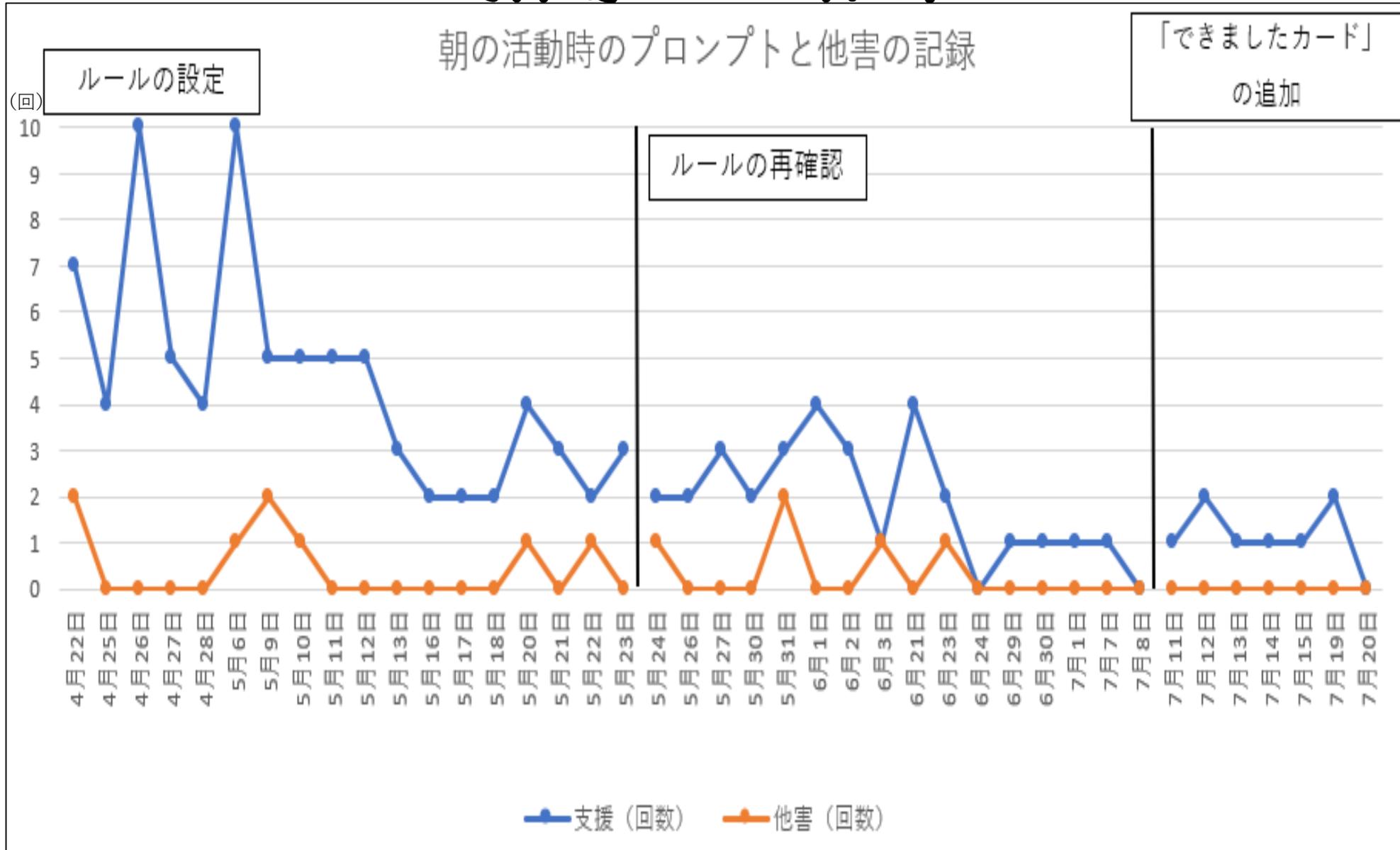
## 朝の活動

確認	すること
	①検温・体調チェックを記入する
	②連絡ファイル・宿題ファイルを出す
	③かばん・水筒をロッカーに片付ける
	④SHRまでiPadが見えます。
	⑤SHR（立ったまま参加）
	⑥朝のチェック

スケジュール  
確認

朝の活動スケジュールと確認カード

# 指導 I の結果



# 指導Ⅰの結果

- ・ 4月当初、登校してすぐ活動に移らず、教室内をウロウロする、口答で指示をすると他害（教員を叩く、蹴る）や逸脱（トイレにこもる）等の行動が見られた。
- ・ 4月22日から朝の活動のスケジュールを設定したことで、他害は減少したものの言葉かけや指さしのプロンプトが減らないために、5月24日にルールの再確認を行った。
- ・ それ以降は自発的にスケジュールに沿って活動を始めること多くなったが、確認カードを貼らなかつたり、検温をせずに体調チェックを記入するなど、行動を促すための指さし・言葉かけがなくならない状況であった。

# アドバイザーからの助言

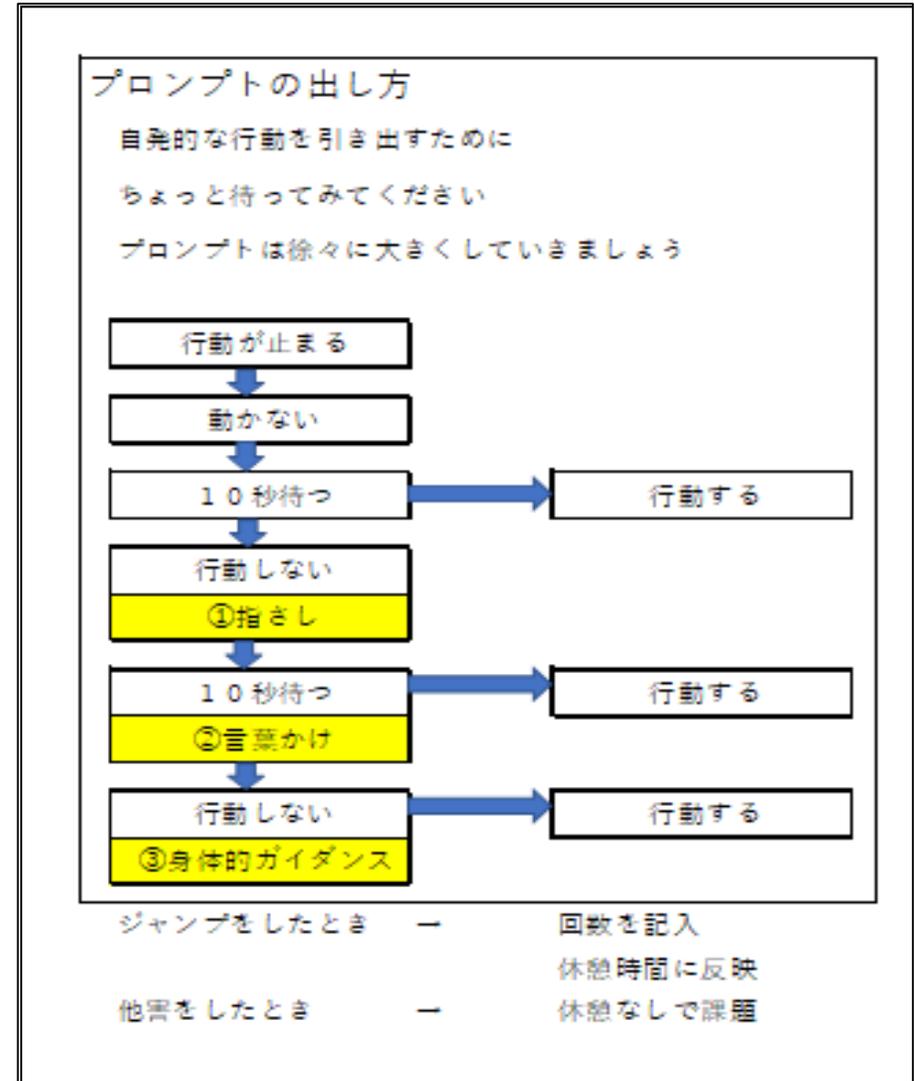
- 突然ジャンプすることがについては，人に迷惑をかける範囲でなければ問題ないが，クラスメイトに迷惑をかける範囲であれば改善が望ましい。
- 担任は，10秒見守っても本生徒からの行動が見られなかったら指さし，それでも難しい場合は言葉かけを行っている（主体的な行動を促すため，すぐに言葉かけせず，極力少ないプロンプトで行動を促せるようにしている）。このことについて，担任だけでなく，教員全体で指導方法を共有する必要がある。



# 指導 2 : 指導の見直し

## (1) 教員への般化

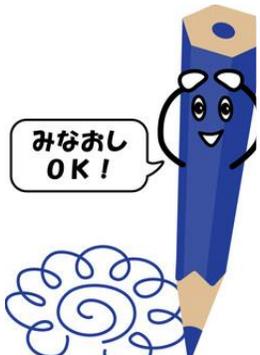
- プロンプトの出し方の共通理解を図った。
- 記録用紙に添付し、授業に入った教員が確認できるようにした。



# 指導 2 : 指導の見直し

## (2) 朝の活動のスケジュールの再設定

- 新たにハンカチをポケットに入れる活動を途中から追加した。
- 重要な方法を赤字にして見やすくした。



### 朝の活動

はやくできたらたくさんiPadができるよ。

確認	すること
	①検温・体調チェックを記入する
	②連絡ファイル・宿題ファイルを出す
	③かばん・水筒をロッカーに片付ける
	④ハンカチをポケットに入れる
	⑤「できました」カードを提出する SHRまでiPadが見えます。
	⑥SHR (立ったまま参加)

### 約束

- 早くできたらたくさんiPadが見れるよ。
- 8:55~SHRです。時間に合わせて終わりましょう。  
SHRまで終われたら、SHR後もiPadが使えます。

# 指導 2 : 記録の取り方

- 朝の活動時のプロンプトの場面，種類と回数を記録できるようにした。
- 備考に考えられる原因を記録する。
- 他害はほとんど見られなくなったため，記録を中止した。

朝の活動記録

・どのタイミングでどの支援が必要だったかを正の字で  
 ・特記事項があれば備考欄に記入する  
 ・他害があった場合は考えられる要因を記入する

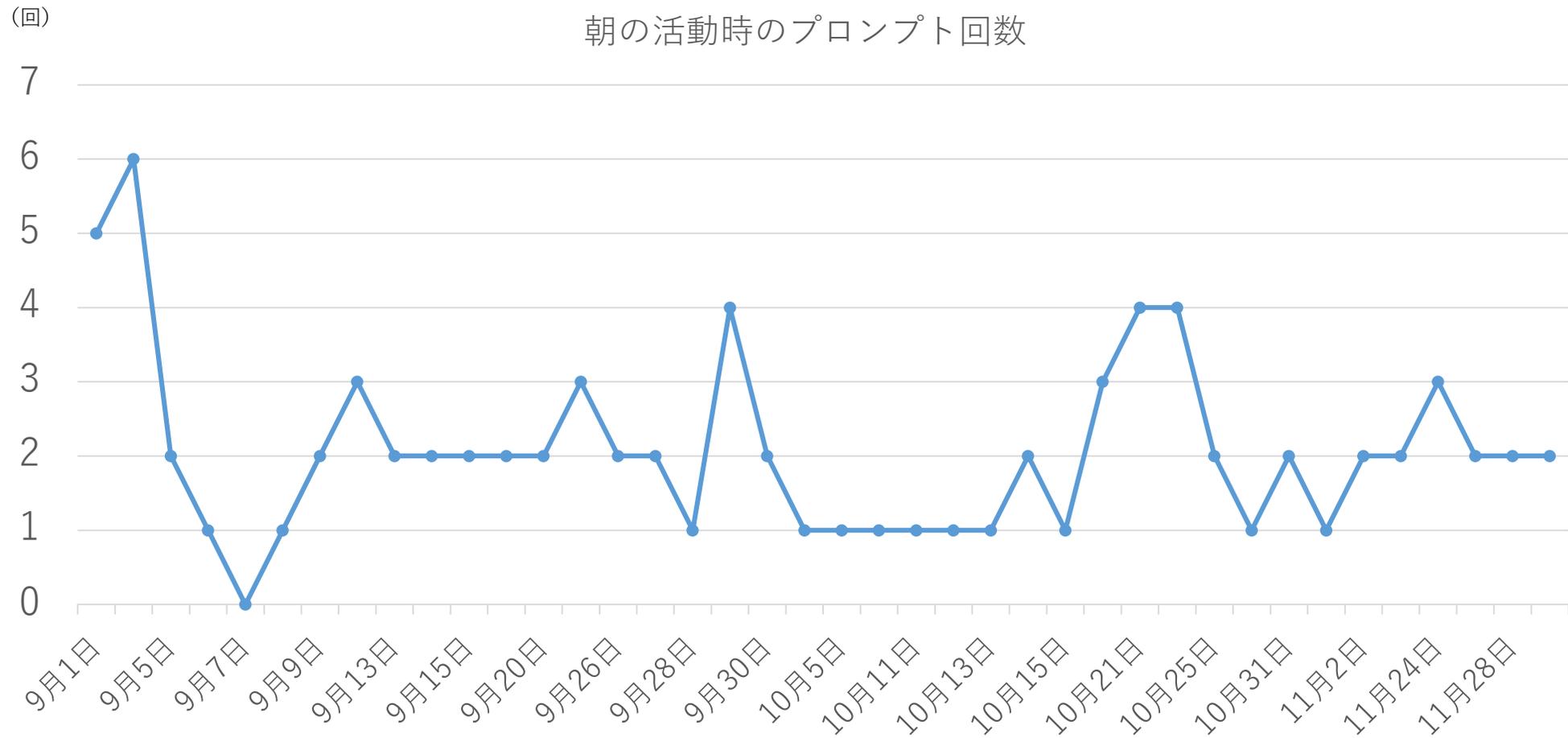
	月 日 ( 月 )				/ 月 / 日 ( 火 )				/ 月 / 日 ( 水 )				/ 月 / 日 ( 木 )			
	支援・他害の回数				支援・他害の回数				支援・他害の回数				支援・他害の回数			
	指さし	言葉かけ	その他	他害	指さし	言葉かけ	その他	他害	指さし	言葉かけ	その他	他害	指さし	言葉かけ	その他	他害
①検温・体調チェック																
②ファイルの提出																
③カバン・水筒片付け																
④ハンカチ																
⑤カードの提出																
⑥その他																
備考	/								スケジュール 「まだ下見可」				OK!!			

	月 日 ( 月 )				月 日 ( 火 )				月 日 ( 水 )				月 日 ( 木 )			
	支援・他害の回数				支援・他害の回数				支援・他害の回数				支援・他害の回数			
	指さし	言葉かけ	その他	他害												
①検温・体調チェック																

記録用紙

# 指導 2 の結果



# 指導 2 の結果

## ・ 場面別のプロンプトの回数 (9 / 1 ~ 12 / 2)

① 検温 ・ 体 調チェック	② ファイルの 提出	③ カバン・水 筒片付け	④ ハンカチ	⑤ カードの提 出	⑥ その他
26	5	16	11	5	17

## 指導 2 の結果

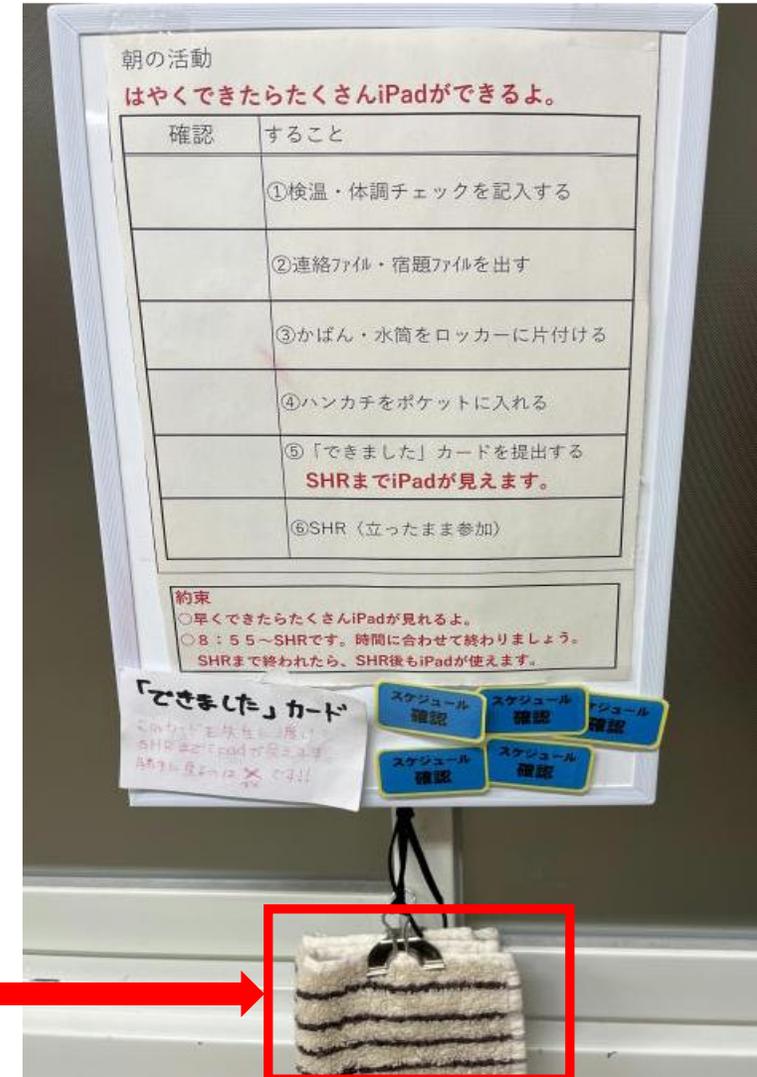
- 夏休み明けは，プロンプト回数が多かったが，徐々に減りつつあるものの，常時 1 ～ 2 回の指示が必要だった。
- 場面別のプロンプト回数では，検温・体調チェックとハンカチをポケットに入れる活動（10月以降取り入れた活動）に多くのプロンプトが必要だった。
- その他では，活動を始めるまでに時間がかかり，始めるための言葉かけが多かった。

# 指導3：指導の見直し

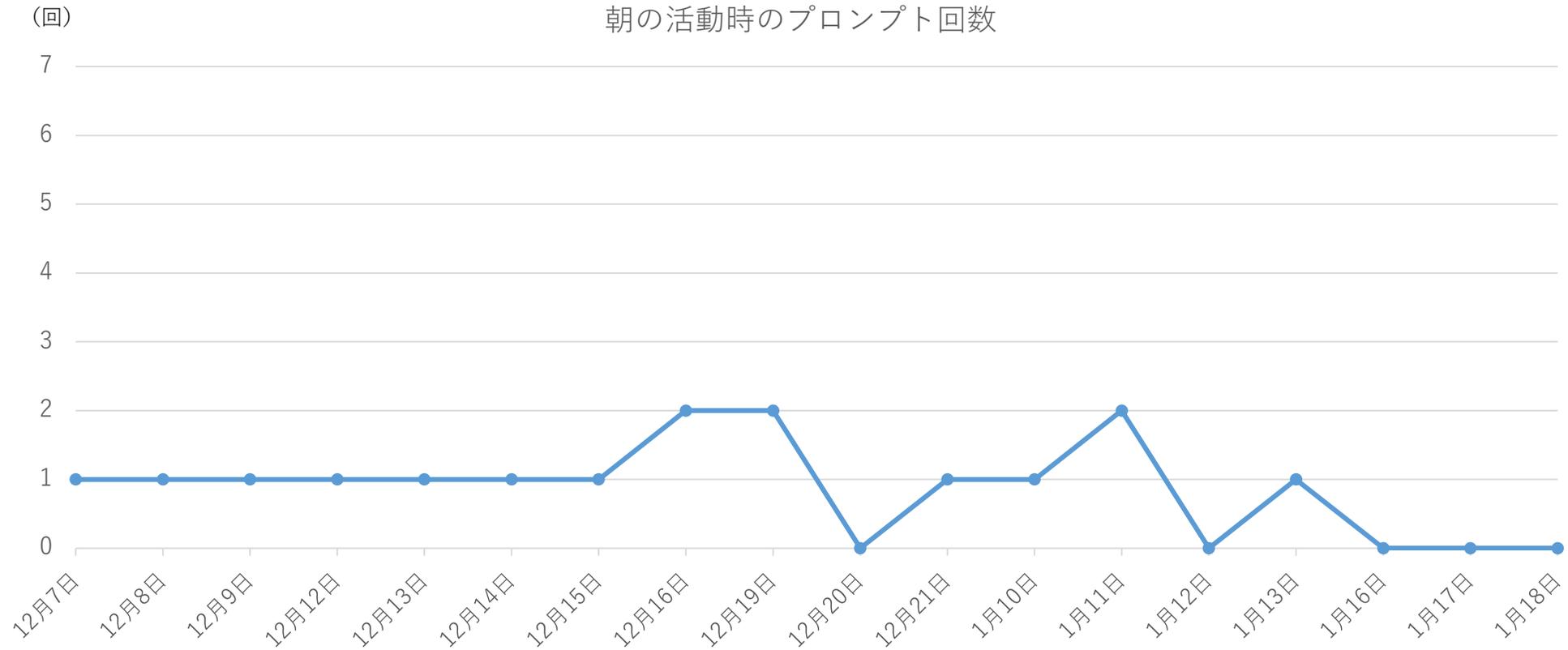
- 検温・体調チェックのプロンプトが多い理由として、確認をせず適当にやってしまうことが考えられた。そこで、チェック記入後職員室へ報告をするようにした。職員室へ報告に行き教員からやり直しを促されると、やり直しに時間を要し結果的にiPadの時間が短くなるという仕組みである。この仕組みにすることで、確実にチェックできるようになることをねらった。
- ハンカチを確実に取れるようにするために、スケジュールの下にハンカチをかけておくようにし、行動が定着するようにした。



ハンカチを  
かけておく



# 指導 3 の結果



# 指導 3 の結果

- ・ 場面別のプロンプトの回数
- ・ (12/7~1/12)

① 検温 ・ 体 調チェッ ク	② ファイル の提出	③ カバン・ 水筒 片付け	④ ハンカチ	⑤ カードの 提出	⑥ その他
3	0	0	12	0	0

# 指導 3 の結果

- 平均して毎日 1 回程度のプロンプトが必要だが、プロンプトなしの日も出てくるようになった。
- 12月からハンカチをスケジュール近くに置くことによって、自発的に行動できる場面が出てきた。

# 成功のポイント

- 新しい指導やルールを学習する前に，本人と話し合いをすることで，落ち着いて指導に移ることができた。
- 望ましい行動ができた場合には，良い結果（ご褒美）があることを理解することができ，現場実習へも般化することができた。
- 記録の取り方や指導方法を教員間で共有することができ，他の教員からも多くのアドバイスをもらうことができた。

